

2012年10月13日（土）と14日（日）の2日間にわたり、広島修道大学において第21回研究発表大会が開催されました。昨年に引き続き、今回も155件の口頭発表と33件のポスター発表という盛会となりました。参加者も362人（有料入場者）と過去最大数を数え、懇親会も大盛況でした。大会を運営していただいた中国支部長の岩井哲先生および川瀬正樹先生を始めとする広島修道大学の方々、当日お集まりいただいた学会員の方々に、深く感謝申し上げます。

本年度はKAGISとの共同国際シンポジウム開催年に当たります。韓国からは18名の参加者があり、国際シンポジウムでは10本の発表が行われました。

両日に渡り、9つの特別セッションも昨年同様に開催されました。1日目には「地方自治体における地理空間情報の新たな活用方法について」、「マイクロジオデータの普及と都市・地域分析での利活用」、「FOSS4G 日本語ローカライズの現状と課題」「社会経済データの研究における利活用1・2」の5つが、2日目には「持続安定的な地域の情報基盤確保に向けて～アカデミック地域情報サポートーズクラブ」、「日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と学校におけるGIS教育」、「人の流れに関するデータ計測、整備、利用を横断的に考える」、「震災時の経験を基にしたGISを用いた行政支援の可能性」の4つが行われ、いずれも盛況でした。なお本年は、全ての特別セッションを、非会員の方でも入場して頂けるオープンセッションとしました。

ハンズオンセッションも、今年は2つ企画されました。1日目は「RでGIS」、2日目は「マイクロジオデータ講習会」がそれぞれ開催され、いずれも予約で満員となり、参加者には大変好評でした。

1日目夕刻には、別会場であるひろしま国際ホテルに移動し、盛大な懇親会が開催されました。こちらの方も合計118名の方にご参加いただき、盛況となりました。団長でKAGIS前会長のJo Myunghee先生の挨拶と乾杯の後、多くの参加者が瀬戸内の魚を始めとする様々な料理に舌鼓を打ちました。KAGISからはお酒とお菓子のお土産も頂き、懇親会会場で、皆で頂きました。その後、学会賞の授賞式、次期開催校からの挨拶などが行われました。

閉会式では、大会優秀発表賞8本、本年度から設けられたポスターセッション賞4本の発表が行われました。閉会式に参加した受賞者には、それぞれ大きな拍手が送られました。

来年度の研究発表大会は、慶應義塾大学において開催されます。日程とキャンパスは未定ですが、開催日と参加手続きは、いずれも本年度とほぼ同様の日程となる予定です。来年度も、多くの方々の積極的なご参加をお待ちしております。